

2 川や池の生きもの

① 川のようにす

田辺市内を流れる左会津川水系は、長さといい規模といい、自然観察に手頃な川です。ところが、近年拡大された植林や果樹園の開発によって、水量が不安定になって土砂が流入したり、農薬や家庭排水の増加や泥土^{でいど}の堆積^{たいせき}が続きました。そのため川原にツルヨシが密生し、セイタカアワダチソウ、オオブタクサなどの帰化植物^{きか}がたくさん侵入してきました。また、最近は高速道路の南進にともなってオオキンケイギク、ナルトサワギクなどが目立つようになってきました。さらに、アユなど清流の魚類のいたところに、多量のニシキゴイやブラックバスを放流したため、中流から河口^{せいぶつそう}までの生物相は大きく変化しましたし、在来種の生育数も著しく減少しました。しかし、上流域から源流域にかけては、高尾山や槇山などの山々の間を流れ下るので、多少の土砂堆積は見られるものの、生育する生物相には大きな変化がなく、自然観察に好適な地点がたくさんあります。



芳養川の上流



左会津川（上三栖）



左会津川（秋津町）

② 水辺の植物

川の周辺に見られる樹木で代表的なものは、ハンノキやヤナギなどの仲間です。ハンノキはまっすぐ伸びる木ですが、カワラハンノキは溪流の岸辺に生える低木です。昔は左会津川水系の中流域まで生えていたようですが、最近では上流部だけにしか見られません。ヤナギ類で多い木はネコヤナギです。早春に綿毛の花をつけることでよく知られています。このネコヤナギとその根ぎわに生えるセキショウとは、安定した川岸に多く見られた植物でした。その他に中流域にはアカメヤナギ、カワヤナギ、ジャヤナギなど、背の高い木もいくつかあります。これらも水辺環境の保全と景観保持に重要な植物群落だと考えられます。

かつては田辺市内にも多数のため池があって、多くの特有の動植物に恵まれていたことを、南方熊楠らが記録しています。特に天王池や新庄の池などには、ジュンサイ、ミスミイ、タヌキモなど、珍しい植物が密生^{みつせい}していたそうです。ところが、農業形態の変化から、多くのため池は



左会津川（伏菟野）



カワラハンノキ



ネコヤナギ

次々に埋め立てられ、残りの池も汚濁^{おだく}が進行して、植物の生えていない池に変わってしまいました。エビモ、ヒメビシなどもほとんど見られなくなりました。そんな中でも、わずかに昔の面影を残しているところがありますから、特に大切に保全していきたいものです。



セキショウ



ミスミイとタヌキモ



エビモ



ヒメビシ

③ すいせいこんちゅう
水生昆虫

水辺はトンボや水生昆虫のすみ家です。昔は水田から発生するハラビロトンボやカトリヤンマ、ギンヤンマなどが多数いたのですが、最近ではあまり見られません。それに代わって、ミルンヤンマ、コシボソヤンマ、ヤブヤンマなどのヤンマ類やコヤマトンボ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボなどが、普通種として観察できます。

市街地周辺には特に大きな湿地しっちはありませんが、湿地で発生するサラサヤンマやヒメアカネなどが、天神崎をはじめ各地で確認されています。

農薬の流入しない池や水田にはマツモムシやゲンゴロウ類、それにアメンボやミズスマシの仲間が見られます。これらの昆虫の泳ぎ方や餌との捕り方などは、いくら見ても見あきないものです。

また、左会津川水系の支流や源流部では生きている化石として有名なムカシトンボ、ムカシヤンマや変わった形の巣を作るカタツムリトビケラなどが、他の地域より多く生息しています。



ハラビロトンボ



シオカラトンボの産卵



コシアキトンボ



ムカシヤンマ

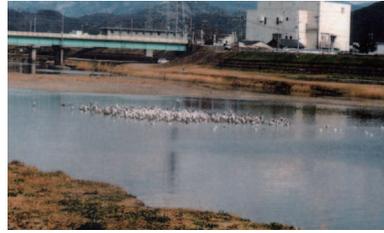


カタツムリトビケラ

④ 川や池の動物

左会津川水系ではカワムツ、アユ、ヨシノボリ、ウナギなどが、上流域にはアマゴ、タカハヤなどの魚類が見られます。また1998年、熱帯系の珍しいオオウナギも遡上^{そしょう}していることが確認されました。魚類以外でも昔に比べて少なくなりましたが、モクズガニやテナガエビも見られます。

川や池の水辺には野鳥がいつも訪れます。美しい姿のカワセミ、水辺で尻尾^{しっぽ}を振りながら歩きまわるセキレイの仲間、溪流に潜るカワガラスなど、いろいろです。山間部にはヤマセミもいたのですが、近年になって姿を見かけません。



左会津川の河口



オオヨシノボリ



モクズガニ



ヒラテテナガエビ



ヤマセミ

水辺の動物の代表者は、何と言ってもカエルの仲間（両生類）です。昭和30年ころまでは、トノサマガエル、ツチガエル、アカガエルのなかまなどが、水田や池の周辺には無数にすんでいました。

ところが農薬（殺虫剤や除草剤など）のために、一時は激減しました。また、カエル類や昆虫類を食べていたヘビやトカゲもほとんど見られない時期もありました。最近では農薬の規制もきびしくなってきたため、ヌマガエル、アマガエル、ヤマアカガエル、イモリなどの回復傾向が見られ、少しずつ増加しているようです。しかし、左会津川水系や主な池などには、外来種であるウシガエル（食用蛙^{がえる}）、放流したブラックバスなどが繁殖して、他の動物の回復の妨げになっている点も見逃せません。



ヌマガエル



アマガエル



ウシガエル